

# 安全の手引き

平成28年2月1日  
在ハンガリー日本国大使館

## 目次

はじめに

1 ハンガリーの治安情勢……………2

2 邦人の被害状況……………2

3 主な被害罪種の傾向と対策……………2

(1) すり

(2) 置き引き

(3) 侵入窃盗

(4) 詐欺盗

(5) 路上犯罪（強盗、ひったくり）

(6) 自動車盗・車上狙い

(7) ぼったくり

4 緊急連絡先……………7

おわりに

はじめに

ハンガリーは、他の欧州各国に比して、大規模テロ、暴動、クーデター等が発生する危険性は相対的には低い一方で、一般犯罪の被害に遭う可能性については比較的高いと言えます。毎年多くの日本人旅行者や在留邦人の方々が、すりや置き引き、侵入盗等の犯罪被害に遭遇しています。

当館は、皆様の安全対策の一助となるよう「安全の手引き」を作成し、ここ数年間の被害事例をもとに、犯行の傾向と効果的な対策を紹介しておりますので、是非ご活用下さい。

## 1 ハンガリーの治安情勢

ハンガリーの年間犯罪件数は、1998年の約60万件をピークとしてその後減少傾向を辿り、以降は40万件前後と、欧州各国と比較して平均的な数字で推移してきました。ところが、2010年を境に再び上昇に転じ、同年の犯罪認知総件数は約44万件、2011年は約45万件、さらに2012年は47万件と増加の一途を辿っていました。そこでハンガリー政府は、犯罪件数の減少のため、国内法の改正、刑法の厳格化、警察官に対する積極的指導等の施策を講じたところ、2013年が約32万件、2014年が約31万件、そして2015年は28万件と着実な減少傾向にあります。

一方、昨年中のハンガリーにおける犯罪件数を、日本の犯罪件数約120万件と比較すると、件数そのものは約5分の1程度の発生ですが、人口千人当たりの犯罪件数は、ハンガリーが約28件、日本が約10件と、日本の約3倍の犯罪発生率となり、高い数値を示しています。

## 2 邦人の被害状況

2014年中にハンガリーを訪れた日本人観光客は6万8,742人、ここ5年間の平均は7万3,648人と、毎年約7万人の日本人観光客がハンガリーを訪れています。また、当地には約1,300人の在留邦人が居住しており、東欧諸国の中でも比較的多くの日本人の方々が在住しています。その中で、日本人が被害者となった犯罪は、ここ5年平均を見ると60件ほど発生しています。

すりや置き引き、偽警察官による詐欺盗は、観光名所等を中心に旅行者の被害が多く、侵入窃盗や車上狙いは、当地在住者を対象として依然として多く発生しています。

## 3 主な被害罪種の傾向と対策

### (1) すり

#### ① 傾向

日本のすりは、単独犯による犯行が主ですが、ハンガリーでは、3人一組のチームを形成し、相手の注意を引く『引きつけ役』と、実際にすりを行う『実行犯』に分かれるのが特徴的です。

- 「道がわからない」「写真を撮ってほしい」等と言って話し掛け、道案内や写真撮影に集中している間に別の者が盗みをはたらく。
- ترامや地下鉄に乗車する際、人がドアを意図的に塞ぐように立って

いるため乗車できずにいると、別の者が後ろから乗車するふりをしながら後ろポケットに入っている財布などを狙う。

- バス、トラム、地下鉄等の公共交通機関で、かばんを後ろ掛けにする、リュックサックなどを背負っている場合は被害対象となりやすい。

## ② 対策

- 人から何かを依頼された場合は断り、応じない。やむを得ず依頼に応じる場合には、仲間と思われる怪しい人物がいないかを必ず警戒・確認する。
- カバンは絶対に前掛けで持ち歩き、横掛け、後ろ掛けにはしない。
- 財布は、上着の胸ポケットやズボンの後ろポケットやウエストポーチ等に財布を入れない。

## (2) 置き引き

### ① 傾向

置き引きは、最も被害の多い犯罪形態の一つで、周囲に知り合いがいることで油断し、わずか2～3秒目を離れた際にも持ち去られるケースが殆どです。ブダペストーウィーン間の長距離列車（Rail-Jet）や駅構内において多く発生しています。

- 長距離列車内で棚の上、あるいは足下にカバンを置き、ほんの数分目を閉じている間に盗まれる。
- 座席に座ると、車外から窓を叩いて話し掛けようとする者がおり注視している際に、座席横のカバンを盗まれる。
- 駅構内の切符売り場に並び窓口で切符を購入している間にスーツケースを盗まれる。

### ② 対策

- 長距離列車に乗車する際は、カバンと棚を紐で結ぶ等して、持ち去ることができないようにする。
- 駅構内や列車内では、カバンやスーツケースの一部に自分の体が触れておくようにする。

## (3) 侵入窃盗

### ① 傾向

日本における侵入窃盗の件数は9万3,566件に対し、検挙数は5万500件（検挙率54.0%）と高い検挙率を維持しています。一方、ハンガリーでは2万285件、検挙数が4,888件（検挙率24.1%）と、日本と比較すると検挙率が格段に低いため、被害に遭った場合、被害品が戻ってくる確率が極めて低いと言えます。

- 自宅以外のホテル等では、ユースホステルに宿泊していた女性が、深夜目を覚ますと、部屋の中で見知らぬ男性が自分のカバンから何かを持ち出そうとしていた。

## ② 対策

### ア 自宅

- 被害当時、自宅の窓や玄関が無施錠である場合があります。「家に人がいるから、2階（以上）だから、大丈夫」との考え方は捨て、必ず施錠しましょう。
- 業者と偽って入り込み、作業中に窃盗行為に及びケースも散見されます。業者が自宅を訪問する場合、事前に日時を決めさせるようにします。不審と感じた際には、迷わず、業者の事務所等に問い合わせるようにしましょう。
- 「エアコンの室外機がちょうど足場になる」「庭木や雨樋が、ベランダへのはしご代わりになる」等の構造上の問題がある場合は、直ちに大家に改善を申し入れるようにしましょう。

### イ 宿泊先

- 宿泊先のカードキーがなければ特定の階に上がれないようになっているホテルでも、タイミングを見計らってエレベーターに乗り込んでくる者もいます。周囲を十分に警戒しながら、部屋のドアは必ず施錠しましょう。
- 長期宿泊の場合、ハウスキーパーによるクリーニング中（主にバスルームの清掃中）に忍び込み、スーツケース等を盗み出す事案が発生しています。貴重品は必ず携行するようにしましょう。

## (4) 詐欺盗

### ① 傾向

日本では振り込め詐欺を代表とする『特殊詐欺』と呼ばれる詐欺被害の増加が社会問題となっています。こうした特殊詐欺の特徴は、1件あたりの被害額が高額であるという点でも大きな問題となっています。

- ハンガリーにおける詐欺被害は、被害額そのものは僅少ではあるものの、騙す側がありとあらゆる手段を講じて金銭を騙し取ろうと企てる、という特徴がある。
- 麻薬捜査官を自称する偽警察官が、偽の警察バッジを提示しながら「財布の中身を見せる」よう要求してくる。

### ② 対策

- 見知らぬ人を絶対に信用しないようにしましょう。人を騙そうとする者は、一見して善人風であり、また、偽警察官などは、警察バッジを携行して警察官であると信用させようとしています。
- ハンガリーの警察官は、その身分及び適正な職務執行を証明するため、身分証及び警察章（バッジ）の両方を市民に提示する義務があります。警察官を名乗る人物から所持品検査を求められた場合、必ず相手方の身分証の提示を求めましょう。

- 犯人らは偽の警察バッジを所持していますが、本物の警察バッジには5桁の本人ID番号が刻印されており、このID番号のないバッジは偽物であることから、確認時の参考として下さい。

【警察官が提示を義務付けられているバッジ（上）及び身分証（下）】



【真正の警察官身分証】

顔写真、氏名、階級、警察章（バッジ）  
下部に5桁の数字による認証番号。



【偽の警察官身分証の例】

真正身分証は“POLICE”ではなく  
5桁の認証番号



【真正な警察官身分証】

## （5）路上犯罪（強盗、ひったくり等）

### ① 傾向

日本人に対するひったくりや強盗など路上犯罪は、多くはありませんが、発生しています。発生時間帯はばらばらで、夜間のみならず、白昼堂々人通りのある場所で行われた事案も報告されています。

- 見知らぬ男性が話し掛けてきて、衣服が破れていることを指摘。確認すると、衣服の背中部分が刃物で切られていた。その後、話し掛けてきた者が衣服を指さし「捨てるなら私にくれ」と言ってきた。
- 深夜の時間帯に比較的明るい大通りを歩いていると、向かいから歩いてきた酒に酔った男性に、突然顔面を殴られた。

### ② 対策

- 貴重品は持ち歩かない。どうしても携行する場合は、カバンをたすき掛けにしたり、車道と反対側の手に持つなどの工夫をする。
- 見知らぬ者の誘いには乗らないようにしましょう。また、自分が行ったことのないよく知らない店での飲食は避けましょう。また、飲み

物を置いて席を離れないようにしましょう（睡眠薬が混入される事案報告あり）。

- 夜間に外出する際は、常に周囲に注意を払い、不審者に対する警戒を怠らないようにして下さい。不審者を発見した場合は、直ちに人目のある場所に移動するようにしましょう。
- ハンガリーは、街の中心部であっても街灯の明かりは暗く、薄暗い場所が多くあるため、極力夜間の外出は控えるようにしましょう（特に深夜）。
- 万が一強盗やひったくりに遭ってしまった場合、自分の生命・身体の安全を最優先とし、むやみに抵抗することのないようにして下さい。

## （6）自動車盗・車上狙い

### ① 傾向

ブダペスト市内では、2区及び12区において自動車盗が、比較的多く発生しています。被害対象が路上に駐車中の車両であることから、ガレージ付のアパートを選ぶ、外出時は原則として有人監視のある駐車場を使う等することが肝要です。窓ガラスを割るなどして、車内からカーステレオやカーナビゲーション等を盗み出す「車上狙い」被害も多発しています。

- 路上に車両を停めて10分後に戻ると、ドアの鍵穴部分がこじ開けられ、トランクに入れてあったカバンがなくなっていた。
- ブダペスト市郊外の駐車場で駐車券を購入しようとして降車。購入方法がわからずにいると、見知らぬ男性が近付き購入の手助けをしてくれたが、車に戻ると、車内に置いてあったカバンがなくなっていた。
- 同僚の車のトランクにカバンを入れたまま1時間ほど車を離れた。その後ホテルに戻りカバンを取り出そうとしたところ、トランクの鍵穴がこじ開けられており、中のカバンがなくなっていた。

### ② 対策

- 車上狙いは、事前に車両に狙いをつけ追跡している場合が多いため、路上駐車はなるべく避け、監視カメラなどが設置されている有人の駐車場をご利用下さい。やむを得ず路上駐車する場合は、貴重品は全て車外に持ち出し、かつ駐車時間は最小限にするように心掛けましょう。
- 車を離れる際には、貴重品を車外に持ち出せない場合は、自宅を出る前からあらかじめトランクに入れておくなどして、犯人から所在がわからないような方法をとりましょう。

## （7）ぼったくり

### ① 傾向

ぼったくりバー・レストランと手を組む若い女性らが、土地勘のない観光客を標的として客引きを行います。客引きを行った女性らは、被害者に犯行場所を特定させないように、声掛けを行った場所からレストランへ直

行せず、遠回りをしながら店に向かいます。飲食後、法外な値段を請求されて被害者が店側に抗議すると、店側は、注文の時とは別の「裏」メニューを提示し脅迫してきます。

- 2人組の女性らが「写真を撮ってほしい」と言って話し掛けた後、女性らが「良い店を知っているので一緒にどうですか」と誘ってくる。店に入ると注文する前にお酒がサーブされ、その後すぐに法外な値段を要求され、断ると用心棒のような男らが支払いを強要してくる。
- 1時間ほどお酒を飲んで（1万円分程度）帰ろうとしたところ、約10万円の支払いを要求された。警察へ連絡する旨伝えたとこ、店側が態度を急変させ「支払いはいらぬ」と言ってきた（未遂）。

## ② 対策

- 客引きの誘いには応じないようにして下さい。特に20～30代の女性が二人組などの複数で話し掛けてきた場合には、間違いなく客引きであると考えましょう。
- 店まで入ってしまった場合は、注文をする前に、メニューに料金が書かれているか、その値段が妥当な金額かをよく確認するようにしましょう。

## 4 緊急連絡先

### (1) ハンガリーの緊急通報の問題点と対策

#### ① 問題点

- オペレーターの数が少ないため、通報が重なった場合、電話がつながるまで相当長い時間待たされることがある。

#### ② 対策

- 緊急電話が繋がらない場合に備え、最寄りの警察署や消防署、救急病院の代表番号を携帯電話に入力しておくようにしましょう。また、それらの位置についても把握しておき、状況によっては直接同所に駆け込んで、助けを求めるとようにしましょう。
- 緊急の通報に備え、必要なハンガリー語を覚えておくようにしましょう。また、ハンガリー語が話せ、かつ、いつでも連絡が取れる知人の連絡先を把握しておき、緊急時には代理通報してもらうなどしましょう。

### (2) 緊急通報先


- ① 警察:107
- ② 救急:104
- ③ 消防:105
- ④ 緊急用共通電話:112

112は、緊急通報のためのEU共通番号です。外国人がEU各国で、警察、消防、救急のそれぞれの番号を覚える必要はなく、加盟国内ではどこでも112に電話すれば事足りるという制度です。

ハンガリーもEU加盟後に112を導入しました。既存の緊急電話番号が併存し、暫定的に警察が運営しているなど未だ整備途中ですが、旧来の通報先に比べ、112に通報すれば、

- 警察と救急を一度に要請できる
  - オペレーターが、複数言語対応である
- という利点があります。

(3) 在ハンガリー日本国大使館

- ① 所在地 : 1125 Budapest, Zalai u.7
- ② 開館時間 : 午前8時30分～午後5時45分 (月～金)
- ③ 代表電話番号  
ア 開館時間 (06-1) -398-3100  
イ 閉館時間の緊急連絡先 (06-1) 328-5329
- ④ ホームページ : <http://www.hu.emb-japan.go.jp/> 

(4) ハンガリー政府観光局による観光客用ホットライン

(06-1) 438-8080 (英・独語で24時間受付)

観光施設、飲食店等に対する苦情受付のほか、犯罪被害にも一時的に対応。

(5) 緊急時の簡単なハンガリー語

- ① 助けて  
シェギーチェン (Segítsen)
- ② 動けない  
ネム・トゥドク・モゾグニ (Nem tudok mozogni)
- ③ 警察を呼んで下さい  
ヒーヴィヤ・ア・レンドゥールシェーゲット (Hívja a rendőrséget!)
- ④ 救急車を呼んで下さい  
ヒーヴィヤ・ア・メントゥート (Hívja a mentőt!)
- ⑤ 火事だ  
トゥーズ・ヴァン (Tűz van!)
- ⑥ 日本国大使館  
ヤパーン・ナジクヴェツェーグ (Japán Nagykövetség)



おわりに

日本人が被害者となる事件・事故を1件でも少なくするため、この機会に、皆様に3点お願いします。

1 在留届（変更届・転出届・帰国届）の大使館への提出

旅券法により、外国に住所又は居所を定めて3か月以上滞在する人は、在留届の提出が義務付けられています（3か月未満の方も提出いただけます）。在留届は、緊急事態発生時の大使館による安否確認や情報提供の基礎資料となりますので、未提出の方は、提出をお願いします。

また、その性質上、登録内容は常に最新のものにしておく必要がありますので、お手数ですが、記載事項に変更のあった方は変更届、ハンガリー国外へ転出される方は転出届、日本に帰国する方は帰国届の提出をお願いします。詳しい手続については、当館HPをご覧ください。

2 【たびレジ】の登録（<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>）

本「手引き」のほか、当館では在留届をご提出いただきメールアドレスを登録されている方に対して、「INSIDE」と呼ばれる緊急一斉通報を実施しています。  
外務省では、「在留届」提出義務の適用範囲ではない、3ヶ月未満の短期渡航者（海外旅行者、出張者）が、右「INSIDE」情報が確認できる【たびレジ】の運用を開始しておりますので、ご登録の上是非ご活用下さい。

3 被害に遭われた場合の大使館への連絡

不幸にも犯罪被害に遭われた方は、ご面倒でも当館までご一報ください。ご連絡いただいた情報は、個人が特定されないようプライバシーの保護に配慮した上で、当地邦人社会全体の安全向上に資するよう、皆様に還元します。（了）